

第 1 回警察署協議会の開催状況

開 催 日	令和 5 年 5 月 1 1 日（木）午後 1 時 4 5 分～
開 催 場 所	福井南警察署 3 階 武道場
出 席 者	協議会委員 7 人 福井南警察署 署長以下 1 0 人
会 議 概 要	<div style="text-align: center;">  </div> <p>1 委嘱状交付</p> <p>2 協議会会長挨拶</p> <p>3 警察署長挨拶</p> <p>4 議事</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 管内の治安情勢</p> <p style="margin-left: 40px;">ア 福井南警察署の組織</p> <p style="margin-left: 40px;">イ 主な治安情勢</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 質疑、応答</p> <p style="margin-left: 40px;">(委員)</p> <p style="margin-left: 60px;">都会では、強盗などの事件も発生しているが、福井では人目も少なく不安を感じている。警察で防犯カメラを増やしてもらうことは出来ないのか。</p> <p style="margin-left: 40px;">(警察)</p> <p style="margin-left: 60px;">防犯カメラは、増えれば増えるほど事件対応が出来るため、警察としても非常に重要なものと位置づけている。基本的には自治体、個人の家であれば個人での設置を進めており、警察としては防犯カ</p>

メラの設置の際にトラブルとならないよう助言を行っている。

その他、行政で補助金が支給される場合もあるため、確認のうえ地区での設置を検討していただきたい。

(警察)

防犯カメラの設置は非常に効果的だと考えている。

犯罪の防止には、「領域性の確保、監視性の強化、接近の抑制」というものがある。住民間の近所付き合いも希薄となり、領域性の確保や監視性の強化が困難となって、これを補完するために防犯カメラが有効となってきた。

地区として防犯カメラを設置することも、監視性の強化、接近の抑制という点で有効である。

(委員)

横断歩道の取締りを頻繁に行ってもらっており、今では横断歩道で手を上げれば止まらない自動車も少なくなった。徹底して、集中して行うことが大切だと分かった。

自転車に関しては、高校生がスマートフォンを見ながらといった、ながら運転が多く、非常に危険である。ヘルメットの着用についても努力義務ではあるが、高校生でヘルメットを被っている者がほぼいない。署から学校へ指導していただきたい。

(警察)

6月にかけて自転車乗車中の死傷事故が全国的に増え、一年の中で6月の事故数は最多との全国統計もあり、今後も自転車の安全対策をしっかりと行っていく。

また、新聞記事の中に、本県高校生のヘルメット着用率は7.5%との調査結果が出ており、委員のご指摘のとおり高校生の着用率が低いため、ヘルメットを被ることが習慣化されるように、広報啓発活動及び、指導を行っていく。

(委員)

定期的にとり締りを行っていくのが一番効果的だと考える。

(警察)

新生の自転車通学が始まる4月、5月が重要であると認識しており、意見を踏まえてしっかり取り組んでいく。

(警察)

自転車の高校生のながら運転やヘルメットの着用については、小学生や中学生はヘルメットを被り、交通ルールを守って自転車で通学をしているが、高校生や大人はマナーが悪い。大人が一番最初に模範を示さなければならず、高校生だけを取り上げてはダメであるとする。交通指導取締りだけではなく、交通ルールの理解を深める安全教育も進めていかなければ、ルールは定着しないと考える。

(委員)

横断歩道での自動車のマナーは大変良くなってきていると思うが、押しボタン式の信号機がついた横断歩道で、年配の方が押しボタンに気が付かず、横断歩道を渡ろうとするのが危険である。マナーが良くなって、押しボタン式の横断歩道の信号機が無くなると良いと思う。

(警察)

横断歩道での自動車の停止率が向上していけば、危険もなくなり押しボタン式の信号は不要になる。引き続き、横断歩道における自動車の停止率の向上に努めていく。

(警察)

福井県の場合、降雪により横断歩道の白線が消え、歩行者がどこでも渡るなどの交通状況もある。歩道の除雪対策も含め、冬期降積雪時の交通安全指導も必要であると考えている。

(委員)

特殊詐欺に関して、今一番身近にあるものは、振り込め詐欺よりも架空請求やサポート詐欺だと感じている。警察としても、これら詐欺の広報も、強化すべきと考える。

(警察)

実情として数年にわたり警察でも架空請求やサポート詐欺に対する広報啓発を行っているが、なかなか行き届いていない。警察の方でメディア等を通じて広報啓発を行っているものの、手口が変化しイタチごっこに近いところがある。サポート詐欺等についても、特殊詐欺の種別にかかわらず広報していく。

以上